

福祉教育ニュース

令和7年7月号 ◆ No.68 ◆ 発行 社会福祉 千葉県社会福祉協議会

◆編集◆

千葉県ボランティアセンター
〒260-8618
千葉県中央区千葉寺町1208-2
TEL 043(209)8850
FAX 043(312)2886
URL <https://www.chiba-shakyo.jp/volunteer/>

※今号からユニバーサルデザイン(UD)フォントを使用しました。誰にでも読みやすく理解しやすいように設計されています。

福祉教育のすすめ方

～実践に向けた6つのポイント～

近年、少子・高齢化の進展や核家族化などに伴い、家庭や地域の子育て機能の低下、人間関係の希薄化など、さまざまな要因により、地域における社会問題・生活課題は深刻化しています。

このような中、次代を担う子どもたちが、心身ともに健やかに生まれ育ち、心豊かに生活できる環境をつくるためには、子どもたち自身が地域社会の一員として自覚し、地域の福祉課題^{※1}に目を向け、福祉への関心と理解を深め、自らが地域福祉に関わっていき、地域の中で「ともに生きる力」を身につけていくことが必要です。学校だけでなく、家庭及び地域がそれぞれ連携して展開する福祉教育の果たすべき役割は、極めて重要であるものと考えます。

千葉県社会福祉協議会では、千葉県社協行動プラン「第7次地域福祉活動計画」^{※2}を策定し、その中で、施策の方向性の1つとして「学びの場をつくり、福祉人材を育成する」ことを掲げており、これを実現するために、千葉県教育委員会などと連携を図り、「ボランティア活動推進協力校指定事業」をはじめとした福祉教育支援事業を実施しています。

※1 「福祉課題」…人々が安心して暮らしていけるようにするために、社会の中で解決すべき問題や困難のこと

※2 「第7次地域福祉活動計画」…<https://chiba-shakyo.jp/top/xommunity-welfare-activity/>

①「ねらいや目的」を明確にする

福祉教育を実施する際には、そのねらいや目的を明確にすることが大切です。

子どもたちに学習を通して「どんなことを伝え、気づいてもらいたい」「何を考えてもらいたい」といった目的をきちんと設定し、子どもたちに主体的に考えてもらうことが必要です。

②「ともに生きる」をいう視点

福祉教育は、学習を通して「ともに生きる」ということを考える視点が大切です。例えば、障害のある方の講話や体験を通して子どもたちから感想を聞く際、「大変だった」「怖かった」「不便だった」といった感想が多く挙げられることがあります。また、あわせて「障害者の大変さがわかった。今度、街で出会ったら、手伝ってあげたい」といった感想が挙げられることもあります。

一見スムーズに展開されているように見えますが、実は、障害のある方について「大変な人だ」「不便そうな人だ」「かわいそうな人だ」という印象ばかりを子どもたちに与えてしまっている可能性があり、このような場合障害の「負」の部分だけを体験し、結果として『偏った福祉観』をつくりだしてしまっているおそれがあります。それでは、障害のある方を「対等な個人」としてとらえることは難しくなります。

福祉教育では、どんな人も「対等な個人」であることへの理解を通して、「違いがあっても当たり前であること」や「ともに生きる」ということを、子どもたちに伝えることが大切です。

③ 体験を目的化しないようにする

福祉教育における体験学習は、体験をすること自体が目的ではなく、子どもたちが体験を通して新しい気づきを得ることを目的として実施されるものです。

例えば「車椅子体験」や「ガイドヘルプ体験」は、介助方法などの技術の習得だけが目的ではなく、それに加え体験を通して社会のバリア（障壁）や相手とのコミュニケーションなどについて子どもたち自身に考えてもらうことが大切です。

④ 子どもたちが自分自身で考える

福祉教育は、「学習素材として福祉課題を取り上げ、これらの課題を通して福祉への理解を図る」という特徴があることから、だれも確実な回答を持っているわけではありませんし、答えは必ずしも一つとは限りません。

また、福祉教育は、子どもたちと学校外の協力者の方との交流やさまざまな体験活動を通して、自分とは違う価値観にふれたり社会に目を向けたりすることができるという特徴を持っており、子どもたちが自分自身で考えるということを重視しています。

そのため、福祉教育は「正解を子どもたちに教える」というより、「子どもたち自身で福祉課題を知り、解決策を考える」という性質を持っています。

子どもたち自身が、福祉課題の解決に向けて主体的に考えることが望ましいです。

⑤ 安全第一

福祉教育を実施する際には、学校外で学習を行うケースや、地域の方や当事者などの学校外の協力者の協力を得て実施するケースなども考えられます。

福祉教育プログラムの実施においては、子どもたちや学校の先生、そして学校外の協力者の怪我・事故の防止及び感染症の予防を図るなど、福祉教育プログラム実施時の安全面の配慮が必要です。

また、福祉教育プログラムの内容に無理がないかどうか確認するとともに、万が一の事故に備え、適切な対応がとれるようにしておくことが大切です。

⑥ 福祉教育プログラムの企画は一人で抱え込まず、第三者に相談

学校の先生が、子どもたちに対して福祉教育プログラムのすべてを企画・実施する必要はありません。福祉の理念や制度などに関する福祉教育は、福祉関係者など、さまざまな方の協力を得て実施することが有益です。

福祉教育プログラムの企画・実施にあたっては、「ひとりの先生に負担が偏っている」「地域の方との連携の仕方がわからない」といった声も聞かれます。

学校内での連携を図るとともに、学校所在区の区事務所にご相談ください。

社会福祉協議会がお手伝いします！

授業の中で学校周辺の福祉課題を取り上げたい、当事者の方をお招きしたい、福祉体験用具を借りたいなど、このような福祉教育に関するご相談は、学校所在区の区事務所にご相談ください。

※連絡先はP8に記載しています。

東京2025デフリンピック

出典：東京2025デフリンピック 大会サイト

今年2025年、デフリンピックがちょうど100年の節目を迎え、その記念すべき大会がなんと日本で開催されます。今年は歴史あるこの大会が、日本で初めて行われる特別な年です。

デフリンピックとは

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ（Deaf）とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。

デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人のオリンピック」で、国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。

東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。

競技紹介（以下の二次元バーコードから競技の詳細をご覧ください。）

今回開催される東京2025デフリンピックでは、全21競技が実施されます。

それぞれの競技には、選手たちの特性や大会の趣旨に配慮したさまざまな工夫が施されており、どの競技も非常に見応えのある内容となっています。

陸上競技	バドミントン	バスケットボール	ビーチバレーボール	ボウリング	自転車競技（ロード）	サッカー
						
ゴルフ	ハンドボール	柔道	空手	マウンテンバイク	オリエンテーリング	射撃
						
水泳	卓球	テコンドー	テニス	バレーボール	レスリング（フリースタイル）	レスリング（グレコローマン）
						

メダルデザイン

東京2025デフリンピックのメダルデザインは、全国の小・中・高校生による投票によって決定されました。デザインには「折り鶴」が描かれており、選手たちが大きく羽ばたき、活躍することへの願いが込められています。

また、縁起が良いとされている日本の伝統的な模様を使っています。メダルリボンの色には、藍鉄色という緑色を含んだ濃い青色で、江戸時代の人々が好んでいた色を使っています。



デフリンピックから広がる福祉教育の視点

デフリンピックは、「きこえない・きこえにくい人」が活躍できる国際的な舞台です。競技に取り組む姿を通じて、障害のある人々の「できること」に焦点を当てた学びが可能になります。「かわいそう」「助けるべき」といった誤った固定観念を、「対等な人間同士の共生」に転換する教材として効果的です。

また聴覚障害者の多くが使う「手話」や「視覚的コミュニケーション」は、言語や文化としても価値があります。デフリンピックの中継や映像資料では、手話通訳や字幕が活用されており、情報保障の重要性を具体的に学ぶことができます。

「障害者スポーツ＝特別なもの」ではなく、「誰でもスポーツを楽しめる社会」を目指す教育において、デフリンピックはオリンピックやパラリンピックと並ぶ国際大会として紹介できます。福祉教育では、障害者だけでなく健常者にとっても「多様な楽しみ方」があることを伝える良い教材になります。

デフリンピックは、「障害者＝支援される側」という旧来の福祉観をこえ、「共に生きる・支え合う社会の実現」に向けた教育にぴったりの教材です。スポーツを通じてポジティブに障害を学ぶ入り口として、福祉教育の現場にとっても相性が良いといえます。

東京2025デフリンピック 大会サイト <https://deaflympics2025-games.jp>

東京2025デフリンピックは、2025年11月15日から26日までの12日間にわたり開催されます。主な会場は駒沢オリンピック公園総合運動場をはじめ、東京都内や福島、静岡の複数の会場で、計21競技が行われます。福祉教育の観点からも、ぜひ現地に足を運んだり、中継を視聴したりしてみたいと思います。



こちらの二次元バーコードから
大会の詳細がご覧いただけます。

デフリンピック以外の障害者スポーツの国際大会

パラリンピック

パラリンピックは、障害のある人たちが世界中から集まり、スポーツを通じて挑戦し合う国際大会です。オリンピックと同じ年・開催地で4年に1度行われ、名前には「オリンピックに並ぶ大会」という意味が込められています。視覚障害や肢体不自由、知的障害など、さまざまな障害のある選手が「クラス分け」により公平に競い合います。

この大会は、障害のある人の努力や可能性を伝え、共生社会やインクルーシブ教育を考える大切なきっかけになります。子どもたちが「ちがいを」理解し、「ともに生きる」姿勢を育むためにも、授業で取り上げる価値があります。

スペシャルオリンピックス

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちのための国際的なスポーツ運動です。勝敗よりも「参加すること」「頑張ること」「仲間と支え合うこと」を大切にしており、誰もがスポーツを楽しめる場を提供しています。

世界大会のほか、日常的なトレーニングや地域大会も行われ、日本でも多くの人に参加しています。知的障害のない人と一緒にプレーする「ユニファイドスポーツ」などを通じて、互いの理解と共生を育む活動です。

教育現場でも、「ちがいを認め合い、ともに生きる心」を育てる題材として活用できます。

◆千葉市社会福祉協議会「福祉教育支援事業」のご案内◆

本会では、学校での福祉教育・ボランティア学習を推進するため、福祉教育支援事業を実施しています。計画の参考にいただければ幸いです。

ご相談やお問い合わせは、学校所在区のボランティアセンターまで、ご連絡ください。

★「ふれあいトーク」

「ふれあいトーク」は、視覚障害のある方が学校に出向き、「日常生活のこと」や「児童・生徒に考えてもらいたいこと」などについてお話しするプログラムです。

聴覚障害については「千葉市聴覚障害者協会」において講師派遣を行っています（有料）。

※ふれあいトーク講師の送迎については、本会で行います。

※お申し込みの際には、開催希望日の1か月前（講師によっては2か月前）を目安として、候補日を複数お伝えください。

※講師の都合によっては、ご期待に沿えない場合もございます。あらかじめ、ご了承ください。



★「出張ボランティア・福祉体験講座」

ボランティアセンターの職員が学校に出向き、ボランティアに関するお話や、高齢者疑似体験・車椅子体験の指導を行っています。



★「福祉体験用具の貸出し」一覧表

（令和7年4月1日現在）

	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑 区	美浜区	市VC
車椅子〔自走式〕	4	11	10	10	10	10	15
高齢者疑似体験セット〔シニアポーズ〕		12	12	12	12	12	12
白杖〔折りたたみ式〕		50	50	50	40	60	40
白杖〔直杖〕							35
体験用点字ブロックセット		1	1	1	1	1	1
点字器・点字マニュアルセット〔通常サイズ〕		70	70	70	70	70	100
点字器・点字マニュアルセット〔小型サイズ〕							50
視覚障害体験プレートセット		5	5	5	5	5	
視覚障害体験ボードセット							5
マグネットオセロ		7	7	7	7	7	7
点字トランプ		7	7	7	7	7	7
音声電卓		7	7	7	7	7	7
鈴入りサッカーボール		7	7	7	7	7	7
妊婦疑似体験教材		2	2	2	2	2	2
防災カードゲーム		7	7	7	7	7	7

※中央区ボランティアセンターは、車椅子のみの貸出しです。また、駐車場は有料となっておりますのでご注意ください

★「福祉体験用具の貸出し」

各区及び市ボランティアセンターでは、福祉教育・ボランティア学習を支援するため、さまざまな福祉体験用具の貸出しを行っています。ご利用いただくには、予約が必要です。

◆体験用具の一例◆

<高齢者疑似体験セット（シニアポーズ）>

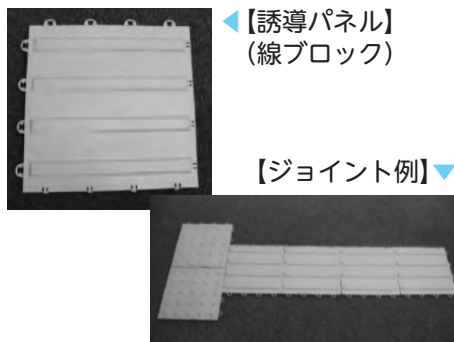


加齢に伴う自然な身体変化や、脳卒中などの病気の後遺症、けがなどの障害によって生じる身体機能の低下・日常生活の不自由さを体験できるセットです。

高齢者に対する接し方や生活環境、バリアフリーなどについて考えさせる体験学習などにご活用いただけます。

<体験用点字ブロックセット>（内容物：警告パネル〔点ブロック〕・誘導パネル〔線ブロック〕・無地パネル）

※貸出場所によって、内容物の枚数が異なります



◀【誘導パネル】
（線ブロック）

【ジョイント例】▶

樹脂製の点字ブロックです。

線ブロック・点ブロック・無地のブロックをジョイントさせることにより、体験学習のコースをつくることができます。

白杖を一緒に使って、視覚障害についての学習をさらに深めることができます。

※点字ブロックセットは、幅70cm×奥行54cm×高さ38cmのコンテナボックスに入れた状態での貸出しとなります。

「点字ブロック」のみの貸出しは行いませんので、ご了承ください。

<視覚障害体験プレートセット>

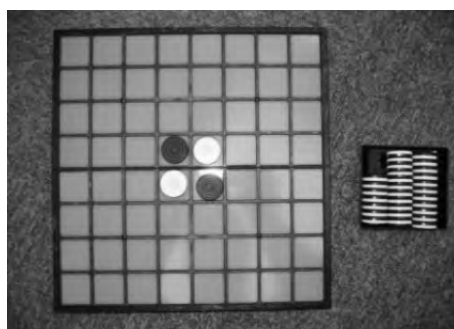


グラス（めがね）と、裏側にマグネットの付いた12枚の紙製プレート（非常口標示板など）のセットです。

グラスに3種類のシートを装着することにより、白内障や視野狭窄などの状態、視覚障害における色の識別についての疑似体験ができるようになっています。

視覚障害についての学習に活用いただけます。

<マグネットオセロ>



石にはマグネットが入っていて、盤のマス目の仕切りが凸状になっているため、置いた石がずれません。また、石の白い面は平面、黒い面には渦巻き状の凹凸が付いているので、石の表裏を触れることでわかるようになっています。視覚障害についての学習にご活用いただけます。

<時計付き音声電卓>



キーを打つと、音声で「押したキー」や「計算結果」などを読み上げる、時計機能・アラーム機能の付いた10桁の小型音声電卓です。

視覚障害についての学習にご活用いただけます。

<鈴入りサッカーボール（ブラインドサッカーボール）>



ボールの中に鈴が入っている、ブラインドサッカー（視覚に障害のある方がプレーできるように考案されたサッカー）用のボールです。

転がると鈴が鳴って、ボールの位置を音で確認できるようになっています。

ブラインドサッカー体験をはじめとした、視覚障害についての学習にご活用いただけます。

<妊婦疑似体教材>



妊娠時期の身体の変化などを体験することができるセットです。

砂袋を1kg単位で装着することができる仕組みとなっていますので、妊娠中期から妊娠後期にかけて、妊娠時期の身体の変化を体験することが可能です。



<防災カードゲーム>



「地震」「津波」「サバイバル」など防災に関する10のテーマに分かれているカードです。各テーマのカードは4枚組1セットで、それぞれテーマに関するキーワードが書かれており、この4枚組を揃えていくゲームです。

4枚を揃えていく過程で、テーマとキーワードを繰り返し口にするることになり、簡単なルールで自然と防災に必要なことを覚えることができます。

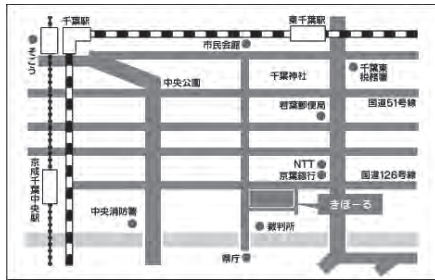
近年の災害は頻発化、広域化、激甚化しており、大規模な水害や暴風被害に見舞われています。今後、南海トラフ地震や首都直下地震といった大規模災害は、高い確率で発生と予想されています。

このような未曾有の災害に備え、遊びながら防災に必要なキーワードを学ぶことができる防災カードゲームを、今年度からご用意しました。ぜひ、福祉教育の授業の中で、ご活用ください。

福祉教育・ボランティア学習の相談窓口

★区ボランティアセンターは、千葉市社会福祉協議会区事務所が運営しています

中央区ボランティアセンター



〒260-8511 千葉市中央区中央4-5-1 (Qiball〔きぼー〕15階)
TEL 043-221-2177 FAX 043-221-6077

花見川区ボランティアセンター



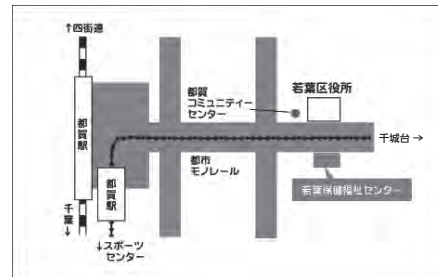
〒262-8510 千葉市花見川区瑞穂1-1 (花見川保健福祉センター3階)
TEL 043-275-6438 FAX 043-299-1274

稲毛区ボランティアセンター



〒263-8550 千葉市稲毛区穴川4-12-4 (稲毛保健福祉センター3階)
TEL 043-284-6160 FAX 043-290-8318

若葉区ボランティアセンター



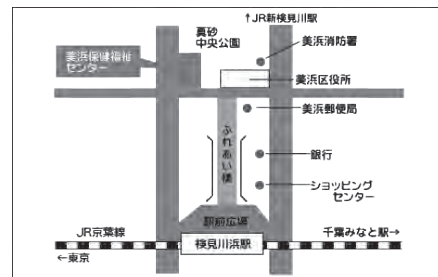
〒264-8550 千葉市若葉区貝塚2-19-1 (若葉保健福祉センター3階)
TEL 043-233-8181 FAX 043-233-8171

緑区ボランティアセンター



〒266-8550 千葉市緑区鎌取町226-1 (緑保健福祉センター2階)
TEL 043-292-8185 FAX 043-293-8284

美浜区ボランティアセンター



〒261-8581 千葉市美浜区真砂5-15-2 (美浜保健福祉センター2階)
TEL 043-278-3252 FAX 043-278-5775

OPEN 月曜日～金曜日 8:30～17:30 第2日曜日 9:00～17:00
(いずれも祝日、日曜祝日の翌月曜日、年末年始を除く)

千葉市ボランティアセンター

〒260-8618 千葉市中央区千葉寺町1208-2
千葉市ハーモニープラザB棟3階
TEL 043-209-8850 FAX 043-312-2886

OPEN 火曜日～土曜日 8:30～17:30
(祝日、月曜祝日の翌火曜日、年末年始を除く)

※各区ボランティアセンターとは開館日が
異なりますのでご注意ください。

